

卒業生による3年生対象進路講演会開催

9月2日(木)、本校の卒業生(2017年卒)で釧路公立大学経済学部経済学科4年生の栗谷川知紀(くりやがわともき)さんを講師に迎え、進路講演会を開きました。

栗谷川さんは、高校時代は文系クラスに所属し、大学も文系の学科に進学しましたが、大学の授業をきっかけにプログラミングに興味を持ち、医療情報学を専攻するに至りました。プログラミング技術を習得し、心肺蘇生法評価・訓練システム(CPR)の開発に成功、日本やアメリカ等で特許を申請中。文部科学省の科学研究費対象事業として多額の研究助成費を獲得し、日本各地の学会で論文発表を行っているそうです。

講演会では、開発したプログラムの実演を含む研究内容の紹介、大学生生活、高校時代を振り返って、について話していただきました。「文系の学部なのになぜ理系的な研究をしているのか」とよく質問され、「単純に興味を持ったから」と答える、と話していましたが、それこそが大学で学ぶ理由だと、改めて思いました。

栗谷川さんが所属する研究室の皆川昭則教授も来校しており、本校生に向けてメッセージをいただきました。「文系・理系という枠にとらわれず、壁にぶつかるまで学び、ぶつかったら壁によじ登って向こう側を見てほしい」「大学選びをするときは、どんな教授がいるかに着目し、自分と合いそうな教授がいる大学を選ぶ。また、科学研究費をたくさんもらっている大学を選ぶのもよい」などのアドバイスがありました。

講演会に先立ち、前日に写真部の生徒の協力を得てCPRの実演及び測定を行いました。講演会では写真部の生徒たちがスタッフとして参加し、活躍してくれました。

このような素晴らしい先輩がいることを励みとし、自分の進路達成に向けて決意を新たにしたいと思います。

なお、岩手日報の取材記事も右に紹介します。

(岩手日報令和3年9月4日付：この記事は岩手日報社の許可を得て転載しています)

開発挑む先輩に聞く


盛岡北高で進路講演会

滝沢 盛岡北高(小原由紀校長、生徒635人)は2日、滝沢市牧野林の同校体育館で、進路講演会を開き、3年生235人が活躍するOBの姿に刺激を受けた。

講師を務めた釧路公立大4年の栗谷川知紀さん(21)は経済学科に所属。大学2年時に受講したプログラミングに関する授業をきっかけに医療情報学を専攻し、研究に着手した。

正しい心肺蘇生法を学ぶために開発したフォーム指導システムは日本や米国に特許を出願中で「自分のやりたいことを追い求めれば、文系、理系関係なく挑戦できる」と広い視野を持つことをアドバイスした。

3年の福士航介さんは「新型コロナウイルス禍で実際に大学の様子を見る機会が少ない中、学びについて知ることができた。どこでも自分のやりたいことは追求できると知った」と理解を深めた。



開発した心肺蘇生法フォーム指導システムについて生徒に説明する栗谷川知紀さん(右)



皆川昭則教授も生徒にメッセージ

<前日のC P Rの実演及び測定の様子>

写真部の生徒たちの協力を得て、講演会前日の9月1日（水）に行いました。

